

第33回 卒業証書授与式

はばたく55名

前日の、教室飾り・校舎周辺清掃・体育館準備と1・2年生は頑張りました。そして、当日の朝、地域の中川様よりお借りした暖房機2機、校内にある全ての移動式ストーブを体育館へ持ち込み、早朝より暖められた体育館は、主役の55名の入場を待ちました。

暖かな陽がさし、快晴の空の下、笑顔と成長を喜び合う生徒・保護者・来賓が集いました。



PTA 教養委員会と生徒ボランティアが手作りの胸花をつけた卒業生の言葉は心をうちました。卒業生が語りかけた群読は、式場内に響き渡り、集った人々の心に染みこみました。励ましと感謝が行きかう、感動あふれるすばらしい卒業式となりました。

卒業生お別れの言葉より

これから先の人生 何が起こるか分からないけれど
この3年間の思い出を糧に 何度でも起き上って
自分らしく歩いていきます。
今日でお別れになってしまうけれど
さよならはいいません。
その代わりに ありがとうをたくさん言います
笑顔にしてくれて ありがとう
思い出をたくさん ありがとう
すべてのことに ありがとう
大好きな日浦中
ありがとう
ありがとう
ありがとう



同窓会入会式

この日浦中を母校とする人は、この33年間で総勢 4,569名+55名 となりました。日浦中を心の財産にしていくことを確かめる式=同窓会入会式が卒業式の前日に開かれました。第一回卒業生の、細田みどり(旧姓 小山)さんに来校いただき、日浦中の33年前を含め、地域に生きること、日浦中を誇りに巣立つことなど、暖かいメッセージをいただきました。

また、陶芸教室「ふくろう」のみなさんから、「福来朗ペーパーウェイト」を卒業記念としてプレゼントしていただきました。



細田さんからのメッセージより(一部)

NHKの「花は咲く」の中に出てくる「私は何を残しただろう」という歌詞。家族や友人、仕事や学校、故郷、大事なものを失ったとき、何が生きていく力になるのでしょうか。

阪神淡路大震災で被災された方からの励ましが何より心響いた。という方も多かったと聞きます。つらい経験をしたからこそはげませる人がいる。人とのつながり、励ましを送り、誰かを元気づけることが喜びに感じられたとき、生きている意味が見えてくると……

離任される先生



| | | | |
|---------|-----|-----|-------|
| 松本 恭子先生 | 教 頭 | 3年間 | 清和中へ |
| 村井 康敏先生 | 体育科 | 6年間 | 伴 中へ |
| 河内 伯子先生 | 国語科 | 5年間 | 大塚中へ |
| 出口 康宏先生 | 美術科 | 3年間 | 亀山中へ |
| 河原 太郎先生 | 理科 | 1年間 | 広島大学へ |
| 白髪 裕介先生 | 事務 | 1年間 | ご退職 |
| 河城 真弓先生 | 事務 | 6年間 | ご退職 |



お知らせ 一昨年度より、離任式は、修了式の中で引き続いて離任者紹介という形で実施しております。離任といっても、広島市内で教職員として勤務しますし、3月31日までは本校勤務ですので、お別れの式を簡素化することになりました。皆様のご理解とご協力を宜しくお願いします。